

平成16年度 文部科学省実績評価総括表

文部科学省の使命：教育、科学技術・学術、文化、スポーツの振興を未来への先行投資と位置づけ、これを通じ、「人材・教育・文化大国」と「科学技術創造立国」を実現する。					
政策目標	施策目標	基本目標：基本目標の達成度合い（カッコ内は基準年度・達成年度）	達成目標（カッコ内は基準年度・達成年度）	達成目標の達成度合いまたは進捗状況	本文頁
1 生涯学習 社会の実現	1-1 生涯を通じた 学習機会の拡大	高度で体系的かつ継続的な学習機会を提供する高等教育機関において、学習者の多様なニーズに対応し、生涯を通じた幅広い学習機会を提供する。（13年度、16年度） 想定どおり達成	1-1-1 放送大学において、学生数10万人を目指す。（13年度、16年度）	想定どおり達成	
			1-1-2 各大学における社会人受け入れ体制の整備状況に応じて、大学の受け入れられる社会人数を増加させる。（13年度、16年度）	想定した以上に達成	
			1-1-3 各大学院における社会人受け入れ体制の整備状況に応じて、大学院の受け入れられる社会人数を増加させる。（13年度、16年度）	想定した以上に達成	
			1-1-4 社会が求める即戦力となる人材の養成のため、専修学校において受け入れられる社会人の数を増加させる。（13年度、16年度）	想定した以上に達成	
			1-1-5 地域における生涯学習の機会を拡充するため、大学等における公開講座の開設数及び受講者数を増加させる。（13年度、16年度）	想定どおり達成	
			1-2-1 NPO活動への支援方策の提示等を通じ、行政と生涯学習分野におけるNPOとの連携による地域学習活動を充実させる。（13年度、16年度）	想定した以上に達成	
	1-2 地域教育力の 活性化	地域における様々な現代的課題等に対応するため、多様な学習活動の機会や情報の提供、様々な機関・団体が連携することにより、地域における学習活動を活性化させる。（13年度、16年度） 想定どおり達成	1-2-2 完全学校週5日制に対応した週末などにおける子ども等の体験活動の受け入れの場を全国的に拡充する。（13年度、16年度）	想定した以上に達成	
			1-2-3 社会教育施設が中心となった社会教育の活性化のための先駆的な事業の実施や評価を一体的に行い、全国的に広く普及することを通じ、自治体における住民ニーズの把握や事業評価等を通じた課題解決的な取組みの充実や人権に関する学習機会の充実に向けた取り組みを推進する。（16年度、20年度）	想定した以上に順調に進捗	
			1-2-4 教育情報衛星通信ネットワーク（エル・ネット）を活用した大学公開講座の全国への提供を通じ、公民館等の社会教育施設等における多様な学習機会の提供を支援する。（13年度、17年度）	想定した以上に順調に進捗	
			1-2-5 学校教育・社会教育における各種の優れた教育用コンテンツの普及を図る。（15年度、18年度）	概ね順調に進捗	
			1-2-6 地域において男性と女性が共に社会のあらゆる分野に参画するための取組を充実させるため、男女共同参画の促進に関するモデル事業を毎年実施し、その成果を広く都道府県教育委員会等に周知し、その普及・啓発を図る。（14年度、18年度）	概ね順調に進捗	

政策目標	施策目標	基本目標・ <u>基本目標の達成度合い</u> (カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標(カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標の達成度合いまたは進捗状況
	1 - 3 家庭教育の支援	近年の都市化、核家族化、少子化、地域における地縁的なつながりの希薄化等を背景として、親の間に、子育てに関する悩みなどが広がっていることが指摘されている。このため、以下の達成目標に掲げた家庭教育に関する支援の充実を図り、子育て中の親の悩みや不安感を解消し、家庭教育に取り組むことができるようにする。(16年度, 21年度) <u>一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった</u>	1 - 3 - 1 全国の親を対象として、子育てに関する情報提供を行うことにより、親の悩みや不安の解消を図る。(16年度, 20年度)	想定どおり達成
			1 - 3 - 2 子育て中の親の相談相手となる人材を養成することにより、親が気軽に子育てについて相談できる体制を整備する。(16年度, 18年度)	想定どおり達成
			1 - 3 - 3 子育てのための学習環境を全国で整備することにより、全ての子育て中の親が、身近な場所で子育てについて学ぶことができるようにする。(16年度, 20年度)	想定した以上に順調に進捗
	1 - 4 奉仕活動・体験活動の推進による青少年の豊かな心の育成	全国的に学校内外を通じた青少年等のボランティア活動などの奉仕活動・体験活動の推進体制の整備を行い、国内におけるボランティア活動の拡充(ボランティア活動者の増加)を図る。(14年度, 16年度) 想定どおり達成	1 - 4 - 1 国レベルでの情報収集・提供や自治体の活動支援などを行う「全国体験活動ボランティア活動総合推進センター」を平成14年度中に開設し、平成16年度までに、情報収集・提供システムを確立するなど、その役割を十分に果たせるよう機能の拡充を図る。(14年度, 16年度)	想定どおり達成
			1 - 4 - 2 国において、平成14年度中に関係府省及び全国規模の関係団体相互の連携協力関係を構築するための協議の場として「全国奉仕活動・体験活動推進協議会」を構成し、平成16年度までに、活動に関する情報の共有など、幅広い関係者による継続的な連携協力関係の構築を図る。(14年度, 16年度)	想定どおり達成
			1 - 4 - 3 平成16年度までに全国の都道府県・市町村において、活動に関する情報提供・相談等のコーディネートを行う支援センターや、幅広く関係機関や団体等との連携を図り、ボランティア活動の推進に向けた諸課題について協議を行う推進協議会が整備されるよう支援する。(14年度, 16年度)	一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった
1 - 4 - 4 全国の小・中・高校において、7日間以上のまとまった体験活動を実施する。(13年度, 17年度)			概ね順調に進捗	
2 確かな学力の向上と豊かな心の育成	2 - 1 確かな学力の育成	基礎・基本を徹底し、自ら学び自ら考える力などまで含めた「確かな学力」を身に付けさせる。(13年度, 17年度) <u>一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった。</u>	2 - 1 - 1 学習指導要領の目標・内容に照らした児童生徒の学習状況の改善を図り、知識・技能はもとより、学ぶ意欲、思考力、判断力、表現力等まで含めた「確かな学力」を育成する。(13年度, 17年度)	一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった。
			2 - 1 - 2 少人数指導・習熟度別指導の実施など、個に応じた指導の充実を図る。(13年度, 17年度)	概ね順調に進捗
			2 - 1 - 3 教員一人あたりの児童生徒数の欧米並の水準(小:18.6人、中14.6人)への改善を進める。(13年度, 17年度)	一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった。
			2 - 1 - 4 学校教育への社会人等の活用(平成16年度までに約5万人を全国の学校に導入等)を推進する。(13年度, 16年度)	想定どおり達成
			2 - 1 - 5 英語教育の改善の目標や方向性を明らかにし、その実現のために国として取り組むべき施策を盛り込んだ「英語が使える日本人」の育成のための行動計画を策定し、計画に基づいた施策を実施することにより、平成19年度末までに「英語が使える日本人」を育成する体制を確立する。(16年度, 19年度)	概ね順調に進捗

政策目標	施策目標	基本目標・ <u>基本目標の達成度合い</u> (カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標(カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標の達成度合いまたは進捗状況
			2-1-6 学校での朝読書等の読書活動を充実するとともに、平成14年度からの5年間で、学校図書館の蔵書について、新たに4千万冊を整備する。(14年度、18年度)	一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった。
			2-1-7 幼稚園への就園を推進するため、公私立幼稚園の格差を是正すべく、私立幼稚園における減免単価の引き上げ及び第2子以降の減免率の引き下げを推進する。	一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった。
	2-2 豊かな心の育成と児童生徒の問題行動等への適切な対応	他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心、自然や美しいものに感動する心、正義観や公正さを重んじる心、勤労観、職業観など、子どもたちに豊かな人間性と社会性を育むための教育を実現するとともに、児童生徒の問題行動等への適切な対応を図る。(13年度、17年度)	2-2-1 幼稚園から高等学校までの全ての学校種において、体験活動をいかした道徳教育や地域人材の積極的活用など特色ある充実した道徳教育を実施する。(13年度、17年度)	概ね順調に進捗
		想定どおり達成	2-2-2 全国の小・中・高校における7日間以上のまとまった体験活動や、人権感覚を身につける教育を推進する。(13年度、17年度)	概ね順調に進捗
			2-2-3 児童生徒が望ましい勤労観、職業観を身に付け、個々の能力・適性に応じて主体的に進路を選択することができるよう、職場体験やインターンシップ(就業体験)の取組等を通じて、キャリア教育の推進を図る。(15年度、17年度)	想定どおり達成
			2-2-4 全国の公立中学校において、全ての生徒が専門的な教育相談を受けることができる体制を整備する。(14年度、17年度)	想定どおり達成
			2-2-5 小学校における教育相談体制の充実を図り、不登校などの未然防止や早期発見・早期対応、学校運営の課題や児童虐待への対応等について研究し、その成果の普及を図る。(16年度、17年度)	概ね順調に進捗
			2-2-6 不登校対策に関する中核的機能(スクーリング・サポート・センター)を充実し、学校・家庭・関係機関が連携した地域ぐるみのサポートシステムを整備する。(15年度、17年度)	概ね順調に進捗
			2-2-7 学校・教育委員会・関係機関からなるサポートチームの組織化など、地域における支援システムづくりについて研究し、その成果の普及を図る。(14年度、17年度)	概ね順調に進捗
			2-2-8 障害のある子ども一人一人のニーズに応じてきめ細かな支援を行うために乳幼児期から学校卒業後まで一貫して計画的に教育を行うとともに、学習障害(LD)、注意欠陥/多動性障害、自閉症などについて教育的支援を行うなど教育に特別のニーズのある子どもについて適切に対応する。(15年度、17年度)	想定した以上に達成
	2-3 信頼される学校づくり	保護者や地域住民に信頼される学校づくりを進めるため、地域に開かれた学校づくりや教員の資質向上を進めるとともに、特色ある学校づくりをすすめ、学校施設の耐震化を推進する。(14年度、22年度)	2-3-1 全公立学校において自己評価を実施し、その結果を公表する。(14年度、22年度)	一定の成果があがっているが、一部については想定どおり達成できなかった
			2-3-2 全公立学校の6割に学校評議員を設置する。(12年度、16年度)	想定した以上に達成
			2-3-3 全都道府県・指定都市教育委員会における教員評価システムの改善を目指す。(15年度、17年度)	概ね順調に進捗
		一定の成果があがっているが、一部については想定どおり達成できなかった	2-3-4 教員の実践的指導力の向上を図る一環として、概ね全ての教員がコンピュータを使った指導を実施できるようにする。(13年度、17年度)	進捗にやや遅れが見られる

政策目標	施策目標	基本目標・ 基本目標の達成度合い (カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標(カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標の達成度合いまたは進捗状況
			2-3-5 教員の資質向上に関しては、教員の養成・採用・研修段階を通じた教育委員会と大学との連携推進が重要であることから、各都道府県・指定都市教育委員会の8割が、教員研修の改善を目的とした大学との連携の取組を行うことを目指すとともに、中核市においてもこれらの取組が促進されることを目指す。(15年度, 17年度)	概ね順調に進捗
			2-3-6 公立小中学校施設の耐震補強や改築事業について国庫補助を行うこと等により、地方公共団体の計画的な取組を支援し、公立小中学校施設の耐震化を重点的に推進する。(15年度, 20年度)	進捗にやや遅れが見られる
			2-3-7 生徒や保護者が実質的に中高一貫教育校を選択することが可能となるよう、通学範囲の身近なところに数多く設置されることを目標に整備を促進する。(15年度, 19年度)	概ね順調に進捗
	2-4 快適で豊かな 文教施設・設備の整備	児童生徒が安心して学習でき、教育内容・方法の多様化や社会のニーズに対応した文教施設・設備の整備を図る。(13年度, 18年度) 進捗にやや遅れが見られる	2-4-1 公立小中学校施設の耐震補強や改築事業について国庫補助を行うこと等により、地方公共団体の計画的な取組を支援し、公立小中学校施設の耐震化を重点的に推進する。(15年度, 20年度)	進捗にやや遅れが見られる
			2-4-2 児童生徒5.4人に1台の教育用コンピュータを整備する。(12年度, 17年度)	概ね順調に進捗
			2-4-3 概ねすべての公立学校が高速インターネットに常時接続できるよう推進を図る。(14年度, 17年度)	概ね順調に進捗
			2-4-4 5年間で環境を考慮した学校施設(エコスクール)を200校以上整備する。(14年度, 18年度)	想定した以上に達成
3 個性が輝く 高等教育の推進と 私学の振興	3-1 大学などにおける 教育研究機能の充実	活力に富み国際競争力のある大学づくりを目指して、大学の改革を推進するとともに、大学の適切な評価システムを育成すること等によって、大学などにおける教育研究の充実を図る。(毎年度, 毎年度) 想定どおり達成	3-1-1 ファカルティディベロップメント(FD)、厳格な成績評価(GPA)等の教育内容・方法の改善などに取り組み大学を増加させる。(毎年度, 毎年度)	想定どおり達成
			3-1-2 大学におけるインターンシップを推進することにより、教育研究内容と社会での実地経験を結びつけるためのカリキュラムの多様化を促進する。(13年度, 17年度)	概ね順調に進捗
			3-1-3 診療に必要な基本的な知識、技能及び態度を有する医師・歯科医師の養成を促進する。(13年度, 16年度)	想定どおり達成
			3-1-4 国公立大学を通じた競争的環境の下で、各大学の優れた教育改革の取組を促進することにより、高等教育の活性化を図る。(16年度, 20年度)	想定どおり達成
			3-1-5 法科大学院をはじめ、各種の専門職大学院における教育内容・方法の開発・充実等を図り、高度専門職業人の養成を推進する。(16年度, 20年度)	想定どおり達成
			3-1-6 国公立大学を通じた競争的環境の下で、各大学の個性や特色を活かした世界的な研究教育拠点を形成し、国際競争力のある世界最高水準の大学づくりを推進する。(16年度, 19年度)	想定どおり達成
			3-1-7 教員の流動化を促進し、大学における教育研究活動の活性化を図る。(毎年度, 毎年度)	想定どおり達成
			3-1-8 大学の学部等の設置認可に関し、当該学部等が与える学位の種類及び分野を変更しないものについては届出での設置を認めることにより、公立大学のニーズに応じた機動的・弾力的な組織改編を促進する。(16年度, 20年度)	想定どおり達成

政策目標	施策目標	基本目標・ <u>基本目標の達成度合い</u> (カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標(カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標の達成度合いまたは進捗状況
			3-1-9 平成16年4月から、文部科学大臣から認証を受けた評価機関により、全ての大学が定期的に評価を受けることとする認証評価制度を導入し、新たな大学の事後評価システムの構築を図る。(16年度, 20年度)	想定どおり達成
			3-1-10 国立大学の法人化及び公立大学法人制度の創設により、各大学の自主性・自律性を高め、国公立大学の教育研究の活性化を図る。(15年度, 16年度)	想定どおり達成
			3-1-11 学校法人制度の改善を図ることにより、学校法人が課題に対して主体的・機動的に対応していくための体制改善を行い、もって私立大学の活性化を図る。(15年度, 16年度)	想定どおり達成
	3-2 大学などにおける教育研究基盤の整備	国立大学等施設を重点的・計画的に整備し、大学などにおける教育研究基盤の整備を図る。(13年度, 17年度)	3-2-1 国立大学等施設緊急整備5か年計画に基づき、平成17年度までに約600万㎡の国立大学等の施設整備を重点的・計画的に行う。(13年度, 17年度)	一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった
		<u>一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった</u>	3-2-2 施設の効率的・弾力的利用を図るための施設検討委員会等の設置などの体制づくりを推進する。(13年度, 17年度)	想定どおり達成
			3-2-3 施設の効率的・弾力的利用を図るための学内規定の整備を推進する。(13年度, 17年度)	想定どおり達成
	3-3 意欲ある学生への支援体制の整備	教育を受ける意欲と能力のある者がより多くこれを受けられるよう奨学金の充実を図る。(毎年度, 毎年度)	3-3-1 学生が経済的な面で心配することなく、安心して学べるよう、基準適格申請者に対する貸与率の改善に努める。(毎年度, 毎年度)	想定どおり達成
		<u>想定どおり達成</u>	3-3-2 奨学金を希望する者がより多くこれを受けられるよう、貸与人員の増員に努める。(毎年度, 毎年度)	想定どおり達成
			3-3-3 学生生活費等の動向を踏まえ、学生が安心して学べるよう、貸与月額の充実に努める。(16年度, 17年度)	概ね順調に進捗
	3-4 特色ある教育研究を展開する私立学校の振興	私立学校の振興に向け、私立学校における教育研究条件の維持・向上、経営の健全性の向上を図る。(毎年度, 毎年度)	3-4-1 学校法人の収入構成に占める寄付金収入の割合を高める。(毎年度, 毎年度)	一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった
		<u>一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった</u>	3-4-2 学校法人の収入構成に占める事業収入の割合を高める。(毎年度, 毎年度)	想定どおり達成
			3-4-3 私立大学及び私立高等専門学校における教育又は研究に係る経常的経費に対する補助金の割合を高めるため、経常費補助のより一層の充実を図る。(毎年度, 毎年度)	一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった
			3-4-4 私立の小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、盲学校、聾学校、養護学校及び幼稚園の教育に係る経常的経費に対する補助割合の向上を図るなど、経常費補助のより一層の充実を図る。(毎年度, 毎年度)	一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった
			3-4-5 財務状況を公開している文部科学大臣所轄学校法人の割合を高め、できる限り100%に近づける。(11年度, 16年度)	想定どおり達成
4 科学技術の戦略的重点化	4-1 基礎研究の推進	研究者の自由な発想に基づく基礎研究を幅広く、着実に、かつ持続的に推進し、人類の知的資産の拡充に貢献するとともに	4-1-1 第2期科学技術基本計画の方針に沿って、基礎研究について一定の資源を確保する。(13年度, 17年度)	想定どおり達成

政策目標	施策目標	基本目標・ <u>基本目標の達成度合い</u> (カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標(カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標の達成度合いまたは進捗状況
		に、世界最高水準の研究成果や、新たなブレークスルーをもたらす優れた研究成果を生み出す。(13年度, 17年度)	4-1-2 平成17年度までに、第2期科学技術基本計画の競争的資金の倍増を目指すとの方針に沿って、基礎研究を推進するための競争的資金(科学研究費補助金及び戦略的創造研究推進事業)の拡充に努める。(13年度, 17年度)	想定どおり達成
		想定どおり達成	4-1-3 優れた研究成果が生み出され活用されるよう、間接経費の拡充等、競争的研究資金の制度改革を進める。(13年度, 17年度)	一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった
	4-2 ライフサイエンス分野の研究開発の重点的推進	ライフサイエンス研究を戦略的・重点的に推進することにより、革新的な創薬・医療技術及び食料や環境問題への対応のための基盤技術を開発し、ゲノム情報を活用した創薬や個人にあった医療等を実現し、活力ある経済社会の創造に資する。(14年度, 18年度)	4-2-1 タンパク質の全基本構造の1/3(約3000種)以上の構造及び機能を解析し、解析結果の特許化を図る。(14年度, 18年度)	想定した以上に達成
		概ね順調に進捗	4-2-2 ライフサイエンス研究の基盤となる生物遺伝資源(バイオリソース)及びそのゲノム情報について、戦略的に開発・収集・保存・提供を行う体制を確立する。(14年度, 18年度)	想定どおり達成
			4-2-3 基礎研究の成果を実用化につなげていくための実施体制や支援体制を整備し、基礎研究成果の臨床応用への橋渡し研究(トランスレーショナルリサーチ)や最先端の解析機器開発を推進するなどにより、革新的な成果を創出する。(14年度, 18年度)	一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった
			4-2-4 対象とする疾患について30万人規模のサンプル及び臨床情報を収集するとともに、SNP(一塩基多型)の解析を実施し、個人個人にあった予防・治療を可能とする医療の実現に資するための基盤を整備する。(15年度, 19年度)	一定の成果が上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった
			4-2-5 再生医療の実現のために必要な幹細胞利用技術等を世界に先駆けて確立し、その実用化を図る。(15年度, 24年度)	概ね順調に進捗
			4-2-6 実際の生体や細胞を用いて実施している薬剤応答解析等を、先端生命情報技術等によってシミュレーションするプログラムを開発する。(15年度, 19年度)	概ね順調に進捗
			4-2-7 高齢者が健康で幸福な生き方を実現できることを目標に、がんなどをごく初期の段階で発見、早期治療を可能とするレーザー技術、分子バイオ技術、ポジトロンCT(PET)などの光技術を融合した診断・検診技術等を開発する。(15年度, 19年度)	概ね順調に進捗
			4-2-8 国家的・社会的要請の高い脳、ゲノム、免疫・アレルギー研究やバイオインフォマティクス研究等の分野において、基礎的・先導的な研究を推進する。(15年度, 19年度)	概ね順調に進捗
			4-2-9 転写調節領域を中心としたゲノム機能、遺伝子やタンパク質の相互作用等の集中的解析を行うとともに、これらのデータの活用により、各種疾患、生命現象システムを解明する。(16年度, 20年度)	概ね順調に進捗
			4-2-10 がんに関してこれまで得られた基礎研究の成果を実用化につなげる研究を推進し、新しいがん治療法の開発につながる成果を創出する。(16年度, 20年度)	概ね順調に進捗
	4-3 情報通信分野の研究開発の重点的推進	先端的な情報科学技術の研究開発及び研究開発に関する情報化を推進する。(14年度, 20年度)	4-3-1 大学等における情報通信技術のうち、実用化が期待できる技術(モバイル、光、デバイス)等について重点投資を行い、プロジェクト研究として推進し、プロジェクト研究成果の実用化・企業化を目指す。(14年度, 18年度)	概ね順調に進捗

政策目標	施策目標	基本目標・ <u>基本目標の達成度合い</u> (カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標(カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標の達成度合いまたは進捗状況
		概ね順調に進捗	4-3-2 観測実験・シミュレーション等で大容量のデータを扱い、超高速・広帯域のネットワークを必要とする高エネルギー・核融合科学をはじめとする先端分野の研究を一層推進するため、先端的研究機関を最速10Gbpsの回線で接続するスーパーSINETのノード(接続拠点)数を平成15年度までに28機関において整備し、さらに順次拡充する。(13年度, 17年度)	概ね順調に進捗
	4-3-3 世界最高水準の高度情報通信システム形成のための鍵となるソフトウェア開発を実現させ、いつでもどこでも誰でも安心して参加できるIT社会の構築に資する。(15年度, 19年度)		概ね順調に進捗	
	4-3-4 分散したコンピュータを高速ネットワークで結び、百テラフロップス級の計算処理能力を持つグリッド・コンピューティング環境を構築し、産学官連携の推進や、ナノ分野と情報通信分野との連携の下で行う融合領域研究を進展させることにより世界水準の高速コンピューティング環境の実現を目指す。(15年度, 19年度)		概ね順調に進捗	
	4-3-5 大学等が持つ研究ポテンシャルを最大限に活用し、教育・文化・芸術分野における知的資産の電子的な保存・活用等に必要なソフトウェア技術基盤の構築のための研究開発を推進し、人々の教育・文化・芸術に触れる機会の増大と、新たなコンテンツ作成・配信技術の創出を行う。(16年度, 20年度)		概ね順調に進捗	
4-4 環境分野の研究開発の重点的推進	地球温暖化、水循環、資源循環、有害化学物質等の地球環境問題は、我々人類の社会生活と密接な関連を有し、重大な影響を及ぼす恐れがあることから、総合科学技術会議の環境分野推進戦略や地球観測の推進戦略を受け、その影響を科学的に解明し、適切な対応を図るための研究開発を推進する。(13年度, 17年度)	概ね順調に進捗	4-4-1 地球温暖化等の地球規模の環境変動等の解明に役立つため、人工衛星、パイ等を活用し大気、海洋、陸域における観測を行う。また、南極域における研究・観測を行う。更に、地球観測サミットにおいて承認された「全球地球観測システム(GEOS)10年実施計画」を推進するため、今後10年間にわたり地球観測に係る体制強化を図る。(13年度, 24年度)	概ね順調に進捗
	4-4-2 地球温暖化の地球規模の環境変動等の予測モデルの高精度化を図るために、モデルの開発研究を推進する。また、気候変動に関する政府間パネル(IPCC)第4次評価報告書に資する日本モデルを開発する。(13年度, 17年度)		概ね順調に進捗	
	4-4-3 「持続型経済社会」の実現に向け、都市・地域から排出される廃棄物・バイオマスの無害化処理と再資源化(原料化・燃料化)に関する技術開発を行うとともに、その実用化と普及を目指して、要素技術、影響・安全性評価及び経済・社会システム設計に関する研究開発を産学官の連携・協力により行う。(15年度, 19年度)		概ね順調に進捗	
4-5 ナノテクノロジー・材料分野の研究開発の重点的推進	ナノテクノロジーに関して、我が国における産学官の英知を結集した戦略的な取り組みを行うと共に、物質・材料に関して、重点的に投資を行うことにより、総合的かつ戦略的な研究開発を進め、世界に先駆け技術革新につながる成果を創出する。(13年度, 18年度)	概ね順調に進捗	4-5-1 分野別バーチャルラボによって10~20年後の実用化・産業化を展望した挑戦的な研究に関して研究者の緊密な連携の下に効果的な研究を行う。(14年度, 17年度)	概ね順調に進捗
	4-5-2 医療産業分野に適した産学官連携・医工連携研究開発体制を確立し、ナノテクノロジーとバイオテクノロジーの融合によって、ヒトの機能を代替・補助する生体適合材料の開発および細胞とナノ生体材料を複合化したナノ医療デバイス・人工臓器の研究を推進する。(15年度, 19年度)		概ね順調に進捗	
	4-5-3 2010年頃に訪れると予想されるシリコン電子デバイスの微細化の限界を打破するため、より小型、より高速、より省電力のデバイスを、バイオテクノロジーを利用した新原理プロセスを用いて世界に先駆けて開発し、IT分野において世界を先導することを目指す。(15年度, 19年度)		概ね順調に進捗	
	4-5-4 広範な科学技術分野の研究開発に資するとともに、産業の技術革新のための基盤研究として重要な、世界最先端のナノ計測、分析機器を開発する。(16年度, 18年度)		概ね順調に進捗	

政策目標	施策目標	基本目標・ 基本目標の達成度合い (カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標(カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標の達成度合いまたは進捗状況
			4 - 5 - 5 大型・特殊施設・設備を活用したナノテクノロジーに関する高度技術支援を行い、併せて情報収集・発信および研究者の交流促進を図り、総合的に研究活動を支援することを通じて、我国におけるナノテクノロジーを戦略的に推進する。(15年度, 19年度)	概ね順調に進捗

政策目標	施策目標	基本目標・ <u>基本目標の達成度合い</u> (カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標(カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標の達成度合いまたは進捗状況
			4-5-6 物質・材料研究機構において、物質・材料科学技術に関する研究開発等の業務を総合的に行うことにより、物質・材料科学技術の水準の向上を図り、国際競争力があり持続的発展が可能で、安心・安全で快適な生活ができ資源循環可能な社会の実現に貢献する。(13年度, 18年度)	概ね順調に進捗
	4-6 原子力分野の研究・開発・利用の推進	エネルギーの供給安定性や環境適合性に優れた我が国の基幹電源である原子力発電の特性を向上させつつ、また、原子力の多様な可能性を引き出しながら、当該分野における研究開発を進め、その研究成果を利用することにより、社会・経済の発展や国民生活の質の向上を図る。(11年度, 19年度) 進捗にやや遅れが見られる	4-6-1 エネルギーの長期的安定供給を実現するという観点から、供給安定性や環境適合性に優れた原子力の特性を技術的に高める高速増殖炉サイクル技術について、実用化に向けた技術確立を図る。また、核融合技術についても、実用化に向けた研究開発を進める。(11年度, 17年度) 4-6-2 量子ビームテクノロジー(加速器技術など先端科学技術の発展に伴う高度かつ多様な放射線利用技術等)について、科学技術・学術分野から各種産業にいたる幅広い分野での利活用の促進を図る。(13年度, 19年度) 4-6-3 我が国の原子力開発利用を円滑に進めるため、国際協力を進める。また、電源立地対策として、発電の用に供する施設の設置及び運転の円滑化に資するため等の財政上の措置を講じる。(16年度, 18年度)	進捗にやや遅れが見られる 概ね順調に進捗 概ね順調に進捗
	4-7 宇宙分野の研究・開発・利用の推進	新たな活動領域として更なる展開が期待される宇宙において、人工衛星による地球観測等の宇宙開発利用により、安全で安心な社会の構築、国民の生活の豊かさや質の向上、経済社会への貢献等を目指す。(15年度, 24年度) 概ね順調に進捗	4-7-1 安全で安心な社会の構築、国民生活の豊かさや質の向上、経済社会への貢献を目指し、信頼性の高い衛星開発技術を確認するために、地球観測・通信・測位分野における衛星の開発、運用を行う。(15年度, 24年度) 4-7-2 人類の知的資産の拡大を目指し、世界最高水準の特色ある太陽系探査科学や天文観測の技術を確認するために、科学衛星の開発、運用を行う。(15年度, 24年度) 4-7-3 安全で安心な社会の構築、国民生活の豊かさや質の向上、経済社会への貢献を目指し、我が国として重要な人工衛星とロケットを、必要な時に、独自に宇宙空間に打ち上げる能力を維持することができるような宇宙輸送システムを開発する。(15年度, 24年度) 4-7-4 国民生活の豊かさや質の向上、経済社会への貢献、人類の知的資産の拡大を目指し、国際宇宙ステーション計画等の国際協力に参加し、国際約束を果たすとともに、有人宇宙活動のための基盤的技術を効率的かつ効果的に蓄積する。(15年度, 24年度)	概ね順調に進捗 概ね順調に進捗 概ね順調に進捗 概ね順調に進捗
	4-8 海洋分野の研究開発の推進	地球全表面の7割を占め、多様な資源・空間を有する海洋に関する調査研究を行うことで、気候変動、地殻変動等の地球変動現象を解明し、国民生活の質の向上など経済社会への貢献を目指す。(13年度, 20年度) 概ね順調に進捗	4-8-1 地球環境変動の検証、定量化を行うため、アジア・太平洋域を中心とした地域で海面・陸面・大気の観測を実施するとともに、得られた観測データの研究者等への提供を行う。(13年度, 20年度) 4-8-2 自然の気候変動や人間活動に起因する地球温暖化等の地球環境変動について、その現象と過程の研究を行い予測モデルを開発する。(13年度, 20年度) 4-8-3 海域の地震・火山活動を引き起こす地球内部の動的挙動(ダイナミクス)について、調査観測等により現象と過程に関する研究を推進するとともに、海底地殻変動による災害の軽減に資するモデルを開発する。(13年度, 20年度) 4-8-4 海洋の多様な生物・生態系を把握するとともにその機能等に関する研究を行う。また、得られた成果を基に社会と経済の発展に資するため、産業応用への展開に資する研究開発等を行う。(13年度, 20年度)	概ね順調に進捗 概ね順調に進捗 概ね順調に進捗 概ね順調に進捗

政策目標	施策目標	基本目標・ 基本目標の達成度合い (カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標(カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標の達成度合いまたは進捗状況
			4-8-5 海上・海中・海底・地殻内等の多様な環境下での調査観測機器開発等、海洋に関する研究開発の進捗のために必要な基盤技術を開発する。(13年度、20年度)	概ね順調に進捗
			4-8-6 地球環境変動、地球内部ダイナミクス、海底地殻内微生物等の地球科学に関する研究を促進するために、最終的に水深2500mの海底下から深度7,000m掘削し、地層からマントル物質を含む有用な試料を採取できる地球深部探査船の建造を行う。(13年度、17年度)	概ね順調に進捗
	4-9 社会基盤等の重要分野の推進や急速に発展しうる領域への対応	豊かで安心・安全で快適な社会を実現するために、社会の抱えているリスクを軽減する研究開発や国民の利便性を向上させ、質の高い生活を実現するための研究開発成果を創出する。(9年度、21年度) 概ね順調に進捗	4-9-1 全国主要98断層帯の活断層調査結果等により、「全国を概観した地震動予測地図」を作成する。(9年度、16年度)	想定どおり達成
			4-9-2 地震災害に負けない都市を創るため、地震による被害を最小限にするための共用の研究施設「E-ディフェンス(実大三次元震動破壊実験施設)」を完成させる。(10年度、16年度)	想定どおり達成
			4-9-3 大都市圏において大地震が発生した際に人的・物的被害を軽減化できることを目指した研究開発を推進し、地震防災対策に関する科学的・技術的基盤を確立する。(14年度、18年度)	概ね順調に進捗
			4-9-4 地震、火山噴火など自然災害発生可能性の高い地域において、最新の科学的知見・成果の普及を通じた防災力の向上に資する事業を推進し、地震防災対策に関する科学的・技術的基盤を確立する。(16年度、18年度)	概ね順調に進捗
			4-9-5 地球観測等への利用が可能な成層圏プラットフォーム飛行船システムを実現するため、平成16年度までに、「成層圏滞空飛行試験」及び「定点滞空飛行試験」を通じて飛行船の成層圏到達技術及び定点滞空技術を確立する。(12年度、16年度)	想定どおり達成
			4-9-6 国産小型旅客機及びエンジン開発の実現を目指して、民間企業主体の研究開発プロジェクトへの技術協力等を通じて研究開発成果の実用化を図る。(16年度、21年度)	概ね順調に進捗
			4-9-7 テラヘルツ光を利用した医療システム及びその基盤技術を開発するとともに、テラヘルツ光高感度検出・イメージング等の検出技術を開発する。(15年度、19年度)	概ね順調に進捗
5 優れた成果を創出する研究開発環境を構築するシステム改革	5-1 競争的かつ流動的な研究開発システムの構築	競争的資金の改革及び拡充等により競争的な研究開発環境を整備するとともに、任期制の広範な普及等による人材の流動性を向上させ、競争的かつ流動的な研究開発システムを構築する。(13年度、17年度) 概ね順調に進捗	5-1-1 競争的資金の倍増の方針に沿って文部科学省における競争的資金の倍増を目指す。(13年度、17年度)	概ね順調に進捗
			5-1-2 第2期科学技術基本計画、総合科学技術会議等の方針を踏まえながら公正で透明性の高い評価の確立を図るとともに、評価に必要な体制を整える。(13年度、17年度)	概ね順調に進捗
			5-1-3 競争的資金の中の間接経費を拡充する。(13年度、17年度)	概ね順調に進捗
			5-1-4 国研、独法研究機関、大学等において任期制の広範な普及を図る。(13年度、17年度)	概ね順調に進捗
			5-1-5 国研、独法研究機関、大学等の研究者の採用について原則公募を目指す。(13年度、17年度)	概ね順調に進捗

政策目標	施策目標	基本目標・ 基本目標の達成度合い (カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標(カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標の達成度合いまたは進捗状況
			5-1-6 ポストドクターの流動性向上に向けた環境の整備を促進し、学位取得後の早い段階から、多様な研究環境の選択による若手研究者自身の創造性豊かで広い視野を有する研究能力の涵養を目指す。(13年度, 17年度)	概ね順調に進捗
	5-2 評価システムの改革	科学技術を振興するため、研究者を励まし、優れた研究開発活動を奨励していくとの観点から適切な評価を実施する。また適切な評価の実施により、研究開発活動の効率化・活性化を図り、より優れた研究開発成果の獲得、優れた研究者の養成を推進し、社会・経済への還元等を図るとともに、国民に対して説明責任を果たす。(13年度, 17年度)	5-2-1 評価が適切に実施され、その結果が活用されていることを社会に示すために、すべての自然科学関係の国立試験研究機関等において、評価結果の資源配分等への反映状況の公表等、評価の透明性を確保する。(13年度, 17年度) 5-2-2 評価体制を構築し、円滑な運営・推進を行っていくために、評価人材の養成・確保や評価に必要な経費の確保等、適切な資源の確保を促進し、評価基盤を確立する。(13年度, 17年度)	想定した以上に達成 概ね順調に進捗
		概ね順調に進捗	5-2-3 評価を効果的かつ効率的に推進するために、研究開発データの一元化や優れた評価活動を把握し、広く周知する等、評価業務に携わる人材が情報共有できる環境を構築する。(13年度, 17年度)	概ね順調に進捗
	5-3 創造的な研究機関・拠点の整備	優れた成果を生み出す研究開発システムを実現するため、機関のマネジメントの改革等を促進し、国際的に一流の研究開発拠点を構築する。(13年度, 18年度)	5-3-1 既存の組織とは独立した、或いは、既存の組織の枠組みを越えた組織体制を構築し、先導的・融合的な研究開発を実施することにより、研究機関の組織改革を行う。(13年度, 18年度) 5-3-2 従来の研究開発体制では対応することができない、新興分野・融合領域に対応できる体制・環境を整備し、当該分野・領域における先導的な研究拠点の形成を図る。(13年度, 18年度) 5-3-3 人事・給与等のシステムの改革、人材流動化の向上、外国人研究者の受け入れ等を推進することにより、研究機関の組織マネジメントの改革を行う。(13年度, 18年度) 5-3-4 他の研究機関のモデルとなるようなベンチャー企業の推進、産学官連携の強化等の取組を実施することにより、研究成果を社会に還元する仕組みを構築する。(13年度, 18年度)	概ね順調に進捗 概ね順調に進捗 想定した以上に順調に進捗
	5-4 優れた研究者・技術者の養成・確保	我が国の将来の研究活動等を担う優れた研究者・技術者の養成・確保(13年度, 17年度)	5-4-1 第2期科学技術基本計画の方向性を踏まえ、ポストドクトラル制度等の質的充実を図りつつ、政府全体として優れた若手研究者に対するフェロウシップ等による支援を継続的に、若手研究者の自立性向上等を目指す。(16年度, 17年度) 5-4-2 競争的資金によるポストドクターを確保する機会の拡充を図り、研究指導者の明確な責任の下、若手研究者の質的向上を図る。(13年度, 17年度) 5-4-3 ポストドクターの流動性向上に向けた環境の整備を促進し、学位取得後の早い段階から、多様な研究環境の選択による若手研究者自身の創造性豊かで広い視野を有する研究能力の涵養を目指す。(13年度, 17年度) 5-4-4 技術士資格が欧米の同種資格と同程度に普及することを目指し、技術士登録者数の着実な増加を達成する。(13年度, 17年度) 5-4-5 海外の技術者資格との相互承認に向けた協議を進める。(13年度, 17年度)	概ね順調に進捗 概ね順調に進捗 概ね順調に進捗 概ね順調に進捗 概ね順調に進捗
		概ね順調に進捗		

政策目標	施策目標	基本目標・ <u>基本目標の達成度合い</u> (カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標(カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標の達成度合いまたは進捗状況
			5-4-6 科学技術理解増進活動に携わる機関・者が、わかりやすく親しみやすい形で科学技術を伝える活動を進めることにより、国民の科学技術に対する関心と理解を深める。(17年度, 21年度)	概ね順調に進捗
	5-5 研究開発基盤の整備	独創的・先端的な研究開発を進めるため、施設整備はもとより、知的基盤(研究用材料、計量標準、計測方法・機器等、データベース)、研究情報基盤などの研究開発基盤の整備を図る。(13年度, 22年度) <u>一定の成果は上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった</u>	5-5-1 2010年を目的に、知的基盤整備計画(科学技術・学術審議会阿部前会長より遠山大臣に平成13年8月30日に答申)に記載された重点的に整備する知的基盤(研究用材料(微生物等の生物遺伝資源等)、計量標準、計測方法・機器等、データベース)の整備について、の指標に示されているような整備目標を達成する。(13年度, 22年度) 5-5-2 多様な物質・材料の構造解析をはじめとして、従来の光源では達成できない未踏の科学技術領域の開拓に寄与する施設である大型放射光施設(SPring-8:Super Photon ring 8GeVの略称)の共用利用をさらに促進し、優れた研究成果を社会に還元するため、施設整備等を進め、利用者数が前年度に比べて拡大するよう運用を図る。(12年度, 16年度) 5-5-3 観測実験・シミュレーション等で大容量のデータを扱い、超高速・広帯域のネットワークを必要とする高エネルギー・核融合科学をはじめとする先端分野の研究を一層推進するため、先端的な研究機関を最速10Gbpsの回線で接続するスーパーSINETのノード(接続拠点)数を平成15年度までに28機関において整備し、さらに順次拡充する。(13年度, 17年度) 5-5-4 世界水準の教育研究成果の確保を目指し、国立大学等施設緊急整備5か年計画に基づき、平成17年度までに約600万㎡の国立大学等の施設整備を重点的・計画的に行う(再掲)。(13年度, 17年度)	一定の成果は上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった 一定の成果は上がっているが、一部については想定どおり達成できなかった
	5-6 科学技術活動の国際化の推進	国際的な取組が必要とされている研究を国際協力プロジェクトとして推進するとともに、研究成果等の積極的な海外発信を行い、我が国の科学技術活動を認知させる。また、研究者国際交流を促進するとともに、国内の研究環境を国際化する。(13年度, 17年度) <u>概ね順調に進捗</u>	5-6-1 地球規模の問題の解決を目指した研究や国際的な取組が必要となる基礎研究等について、国際協力プロジェクトを推進する。(13年度, 17年度) 5-6-2 研究者間のネットワークを構築し我が国の研究成果、研究水準を世界に発信するため、海外で開催される国際会議等で研究発表を行う研究者の派遣の拡充、我が国の主導により開催する国際会議に対する支援を拡充する。(13年度, 17年度) 5-6-3 研究者国際交流を促進し、我が国の研究環境を国際化するため、外国人研究者の受入れ、日本人研究者の派遣を拡充する。(13年度, 17年度)	概ね順調に進捗 概ね順調に進捗 概ね順調に進捗
6 科学技術と社会の新しい関係の構築を目指したシステム改革	6-1 産業を通じた研究開発成果の社会還元への推進	産学官連携を強化するとともに、大学における知的財産の創出を刺激・活性化し、大学発の研究成果の産業化を拡充することにより、研究成果の社会還元を実現する。(12年度, 22年度) <u>概ね順調に進捗</u>	6-1-1 大学発特許取得数を10年後に1.5倍に増加する。(12年度, 22年度) 6-1-2 大学発特許実施件数(大学の機関帰属)を5年後に1000件に増加する。(15年度, 20年度) 6-1-3 大学等の産学官連携、知的財産、技術経営(MOT)に係る専門知識や経験を有する人材を5年後に5倍に増加する。(14年度, 19年度)	一定の成果があがっているが、一部については想定どおり達成できなかった 想定した以上に順調に進捗 想定した以上に達成

政策目標	施策目標	基本目標・ 基本目標の達成度合い (カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標(カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標の達成度合いまたは進捗状況	
	6-2 地域における科学技術振興のための環境整備	地域の研究開発に関する資源やポテンシャルの活用や地域における科学技術振興のための環境整備を行うことにより、地域経済の再生・活性化を推進し、我が国の科学技術の高度化・多様化、ひいては当該地域における革新技術・新産業の創出を通じた我が国経済の活性化を図る。(13年度, 18年度) 概ね順調に進捗	6-2-1 平成18年度までに、知的クラスターを10拠点程度育成することで地域科学技術振興のための環境整備を促進する。(13年度, 18年度)	概ね順調に進捗	
			6-2-2 平成18年度までに、産学官連携の拠点となるエリアを15~20ヶ所程度育成することで地域科学技術振興のための環境整備を促進する。(13年度, 18年度)	概ね順調に進捗	
			6-2-3 平成18年度までに、各事業を通じた大学等の産学官連携による研究開発を3割程度増加させることによる地域科学技術振興のための環境整備を促進する(13年度, 18年度)	想定した以上に達成	
			6-2-4 平成18年度までに、地域施策を通じた大学等の特許権の出願件数を3割程度増加させることで、我が国の科学技術の高度化・多様化、ひいては当該地域における革新技術・新産業の創出を通じた我が国経済の活性化を図る。(13年度, 18年度)	想定した以上に達成	
			6-2-5 平成18年度までに、産業クラスターとの合同成果発表会への参加等を起因とする、知的クラスター創成事業や都市エリア事業における参加企業を増加させる。(13年度, 18年度)	想定した以上に達成	
			6-2-6 平成18年度までに、すべての都道府県、政令指定都市が独自の科学技術政策大綱や方針を策定するように促すことで、地域の主体的な科学技術活動による地域経済の活性化のための環境整備を促進する。(13年度, 18年度)	想定どおり達成	
	6-3 国民の科学技術に対する理解の増進及び信頼の獲得	国民の科学技術に対する関心と基礎的素養を高める。また、低い年齢段階から能力にふさわしい教育を行うことを通じ、科学技術をリードしうる人材層を厚く育む。(16年度, 21年度) 概ね順調に進捗	6-3-1 科学技術理解増進活動に携わる機関・者が、わかりやすく親しみやすい形で科学技術を伝える活動を進めることにより、国民の科学技術に対する関心と理解を深める。(16年度, 21年度)	概ね順調に進捗	
			6-3-2 学校と科学館、大学等との連携による教育活動や教員研修の推進などにより理数教育の充実を図り、子どもの科学技術に対する興味関心を高める。(16年度, 21年度)	概ね順調に進捗	
			6-3-3 高校等と大学等とが連携して先進的な理数教育や高大接続の取組を進めることにより、生徒の科学技術に関する能力を高める。(16年度, 21年度)	概ね順調に進捗	
	7 スポーツの振興と健康教育・青少年教育の充実	7-1 生涯スポーツ社会の実現	国民の誰もが、それぞれの体力や年齢、技術、興味・目的に応じて、いつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会を実現する。(13年度, 22年度) 概ね順調に進捗	7-1-1 国民の誰もが生涯にわたるスポーツに親しむことができる場の育成・支援を行う。(13年度, 22年度)	想定どおり達成
				7-1-2 スポーツ参加促進のために普及啓発を行う。(13年度, 17年度)	想定した以上に達成
				7-1-3 スポーツ指導者の養成・確保を行う。(13年度, 17年度)	概ね順調に進捗
7-2 我が国の国際競技力の向上		平成22年までにオリンピック競技大会におけるメダル獲得率3.5%を実現する。(13年度, 22年度) 想定した以上に達成	7-2-1 平成17年度までにトップレベルの競技者を組織的・計画的に育成するため、一貫指導システムを構築する。(13年度, 17年度)	進捗にやや遅れが見られる	
			7-2-2 平成20年までにハード・ソフト両面において充実した機能を有するナショナルレベルの本格的なトレーニング拠点を整備する。(13年度, 20年度)	想定どおり達成	
			7-2-3 専門的な技術指導を行う専任コーチを競技団体に配置し、配置に当たってはメダル獲得の期待の高い競技に重点を置く。(14年度, 20年度)	想定どおり達成	

政策目標	施策目標	基本目標・ <u>基本目標の達成度合い</u> (カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標(カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標の達成度合いまたは進捗状況	
			7-2-4 競技者各人の特性に応じた専門的な技術指導を行うことができる指導者(コーチ、スポーツドクター、アスレティックトレーナー)を平成20年までに新たに5千人養成する。(14年度, 20年度)	進捗にやや遅れが見られる	
			7-2-5 トップレベルの選手に対し、国内外での強化合宿を実施する。(14年度, 20年度)	想定どおり達成	
			7-2-6 平成20年までに高度な専門的能力を有する指導者を養成・確保するための研修制度(ナショナルコーチアカデミー)を確立する。(13年度, 20年度)	概ね順調に進捗	
			7-2-7 スポーツ科学・医学・情報に関する研究成果の活用を図るため、国立スポーツ科学センターと関係機関との連携・協力体制を強化する。(14年度, 20年度)	想定した以上に達成	
	7-3 学校体育・スポーツの充実	学校と地域社会・スポーツ団体との連携の推進や、児童生徒の運動に親しむ資質・能力を育成することにより、学校体育の充実を図る。(13年度, 22年度)	7-3-1 地域のスポーツ指導者を体育の授業や運動部活動に積極的に活用する取り組みを推進する。(15年度, 22年度)	想定どおり達成	
		<u>一定の成果は上がっているが一部については想定どおり達成できなかった</u>	7-3-2 複数の学校でチームを編成する複数校合同運動部活動など他の学校や地域との連携等、中学校や高等学校において、運動部活動を活性化する取り組みを推進する。(15年度, 22年度)	想定どおり達成	
	7-3-3 児童生徒の体力の低下傾向に歯止めをかける。(15年度, 22年度)		想定どおりには達成できなかった		
	7-3-4 児童生徒の運動に親しむ資質や能力を育成する基盤として、学校プールや武道場の整備を促進する。(15年度, 22年度)		一定の成果は上がっているが一部については想定どおり達成できなかった		
	7-4-1 全中学・高校における薬物乱用防止教育について、実施割合を改善する。今年度は、平成15年に策定された「薬物乱用防止新5か年戦略」(平成15～19年)を踏まえ、児童生徒の薬物等に対する意識調査を実施する予定である。(13年度, 17年度)		一定の成果があがっているが、一部については想定どおり達成できなかった		
	7-4 学校における健康教育の充実	児童生徒が健康で安全な学校生活を送れるような条件整備を行うとともに、生涯にわたって健康で安全な生活を自ら営んでいくための知識や態度を養う。(13年度, 17年度)	7-4-2 学校独自の危機管理マニュアルの作成など全ての学校における安全管理に係る取組を進め、学校における重大な事故件数を減らす。(13年度, 17年度)	一定の成果があがっているが、一部については想定どおり達成できなかった	
		<u>一定の成果があがっているが、一部については想定どおり達成できなかった</u>	7-4-3 全小・中学校における食に関する指導の取組状況を改善する。(13年度, 17年度)	概ね順調に進捗	
	7-5 青少年教育の充実と健全育成の推進		青少年の心と体の健全な発達を促し、正義感・倫理観などを持った豊かな人間性を育むため、自然体験活動の充実、子どもの読書活動の推進、問題を抱える青少年への支援、有害環境対策の推進、国際交流の促進等により、青少年の健全育成の総合的な推進を図る。(14年度, 17年度)	7-5-1 平成17年度末までに、自然体験機会を得た青少年の割合を、平成14年度の割合を基準として、維持し又は増加させる。(14年度, 17年度)	一定の成果があがっているが、一部については想定どおり達成できなかった
			7-5-2 平成17年度末までに、自然体験活動に係る指導者の養成及び登録制度を構築する。(13年度, 17年度)	想定どおり達成	
			7-5-3 平成17年度末までに、自然体験活動に資する場所の登録件数を増加させる。(13年度, 17年度)	想定どおり達成	
			7-5-4 子どもの読書活動に関する社会的気運の醸成を図るとともに、地域における子どもの読書活動推進体制の整備を図る。(15年度, 19年度)	想定どおり達成	

政策目標	施策目標	基本目標：基本目標の達成度合い(カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標(カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標の達成度合いまたは進捗状況	
			7-5-5 非行等の問題を抱える青少年に対して、自立心や社会性を高めていくことを目的とした体験活動やスポーツ活動、社会奉仕活動などを行うことができる継続的活動の場(居場所)を構築する。(16年度、18年度)	想定どおり達成	
			7-5-6 青少年を取り巻く有害環境対策を推進する観点から、青少年の情報活用能力の育成及び問題性や注意事項等についての啓発を推進する。(16年度、18年度)	想定どおり達成	
			7-5-7 国際交流を通じ、我が国及び各国における青少年及び青少年育成指導者相互の認知度・理解度の向上を図る。(15年度、20年度)	想定どおり達成	
8 文化による心豊かな社会の実現	8-1 芸術文化活動の振興	優れた文化芸術への支援、新進芸術家の人材育成、子どもの文化芸術普及活動の推進等を通じて、我が国の芸術文化活動水準の向上を図るとともに、国民全体が、芸術文化活動に参加できる環境を整備する。(13年度、17年度)	8-1-1 優れた芸術創造活動への支援を継続し、芸術創造活動を活性化させる。(13年度、17年度)	概ね順調に進捗	
			8-1-2 新進芸術家の海外への留学や国内での研修を支援することにより、次代を担う芸術家を育成する。(13年度、17年度)	概ね順調に進捗	
			8-1-3 子どものための公立文化施設における公演機会や学校における芸術文化に触れる機会の提供を継続し、芸術文化の普及活動水準を向上させる。(13年度、17年度)	概ね順調に進捗	
	8-2 文化財の次世代への継承・発展	文化財のうち重要なものの指定等を行い、保護のため必要な措置を講ずるとともに、専門職員等の資質向上や文化財に関する情報化の推進により、文化財の次世代への継承・発展を図る。(13年度、17年度)	想定どおり達成	8-2-1 国が新たに指定等する文化財のうち近代の分野のもの指定等を積極的に行う。(14年度、18年度)	想定どおり達成
				8-2-2 地方公共団体が実施する公有化事業を補助することで、史跡等の適切な保存、管理、整備及び公開を推進する。(16年度、20年度)	想定どおり達成
				8-2-3 文化遺産オンライン構想を積極的に推進することにより、国や地方の有形・無形の文化遺産に関する情報を積極的に国内外に公開する。(16年度、18年度)	想定どおり達成
				8-2-4 文化財の保存及び活用に関する研修を実施することにより、文化財の保存・活用の取組を充実させて、文化財に携る人材の確保と資質の向上を図る。(14年度、18年度)	想定どおり達成
				8-2-5 都道府県及び市区町村の文化財行政に携る者を対象に職務遂行に必要な基礎的事項及び実務上の課題に関する講習会を行い、文化財行政の向上に資する。(14年度、18年度)	想定どおり達成
	8-3 文化振興のための基盤整備	高度化、多様化しつつある国民の文化への関心の高まりに応えるため、我が国の文化芸術活動の中核となる文化拠点等の整備を行うほか、文化に関する総合的な情報システムの構築を進める。また、文化活動を支える基盤として、国語に対する正しい理解の促進を図るとともに、著作権の適切な保護と公正な利用を図り、著作権制度の普及・啓発を行う。(13年度、18年度)		8-3-1 平成18年度までに、国立新美術館の整備を行う。(13年度、18年度)	概ね順調に進捗
				8-3-2 平成17年度までに、九州国立博物館を開設する。(13年度、17年度)	概ね順調に進捗
				8-3-3 文化庁ホームページを含めた文化情報総合システムの情報内容の充実を図る。(13年度、17年度)	概ね順調に進捗
				8-3-4 国民の国語に関する意識の把握に努めるとともに、国語に関する協議会等の開催を通じて、国語の普及・啓発を図る。(13年度、17年度)	概ね順調に進捗

政策目標	施策目標	基本目標・ 基本目標の達成度合い (カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標(カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標の達成度合いまたは進捗状況
		概ね順調に進捗	8-3-5 著作権に関する講習会等の開催やマンガ教材の学校への配布等を通じて、著作権制度の普及・啓発を図るとともに、アジア諸国における海賊版対策を実施することにより、わが国の著作物を適切に保護する。(13年度, 17年度)	概ね順調に進捗
	8-4 国際文化交流の推進による芸術文化水準の向上、文化を通じた国際貢献、諸外国との相互理解の増進	我が国の文化芸術活動の水準を向上させ、文化を通じた国際貢献を行うとともに諸外国との相互理解の増進を図るために、文化芸術振興、文化財保護における国際文化交流を推進する。(13年度, 17年度)	8-4-1 平成17年度までに、日本と関係の深い主要国(英・米・独・仏・中・韓)をはじめ、様々な国から計150名のハイレベルな海外の芸術家・文化財専門家を招へし、国際文化交流のためのネットワークの構築を図る。(13年度, 17年度) 8-4-2 平成17年度までに、我が国の芸術団体が海外公演を行うことにより、文化芸術振興及び国際文化交流を推進する。(13年度, 17年度) 8-4-3 平成17年度までに、海外の芸術団体と我が国の芸術団体とが共同制作公演を行い、文化芸術振興及び国際文化交流を推進する。(13年度, 17年度) 8-4-4 世界の文化遺産保護における国際協力について我が国の経験や技術を活用するために、文化財専門家の派遣や招へい研修の充実を図ることで、質の高い専門家を育成する。(13年度, 17年度)	概ね順調に進捗 概ね順調に進捗 進捗にやや遅れが見られる 想定した以上に順調に進捗
9 豊かな国際社会の構築に資する国際交流・協力の推進	9-1 日本人の心が見える国際教育協力の推進	開発途上国の貧困削減を進めるための最重要分野の一つである教育分野に対して、国際教育協力懇談会(文部科学大臣の私的懇談会)における議論を踏まえつつ、我が国の経験と人材を生かした効果的な国際教育協力を実現させる。また、協力を携わった現職教員がコミュニケーション、異文化理解能力を身につけ、国際化のための素養を児童・生徒に波及的に広めることによって、我が国の「内なる国際化」を推進する。(13年度, 17年度)	9-1-1 拠点システムを整備し、協力経験の豊富な理科教育、教員研修制度、教育行政、学校運営の諸分野において開発途上国における協力経験を蓄積・分析し、協力関係者に伝達するとともに、協力経験の浅い他の分野においては、ワークショップの開催や開発途上国における現地調査などにより、我が国の教育経験に関する情報提供と対話プロセスの強化を行う。以上の活動を通じ、我が国の教育経験を広く途上国に普及する。(13年度, 17年度) 9-1-2 青年海外協力隊をはじめとする国際協力事業への現職教員の参加体制を整備・強化する。(13年度, 17年度) 9-1-3 行政から草の根までを含めた幅広い機関との協力を実現し、国際交流に資するネットワークを構築する。(13年度, 17年度) 9-1-4 「万人のための教育」を主導するユネスコへの協力を通じて、開発途上国における就学率の向上、識字率の向上、教育のすべての局面における質の改善など、「ダカール行動の枠組み」で示された目標に向けた取り組みに貢献する。(13年度, 27年度)	概ね順調に進捗 一定の成果があがっているが、一部については想定どおり達成できなかった 一定の成果があがっているが、一部については想定どおり達成できなかった 概ね順調に進捗
	9-2 諸外国との人材交流の推進	諸外国との人材交流等をとおして、国際的人材育成を推進するとともに、諸外国の人材育成への協力、我が国と諸外国の相互理解の増進、我が国の経済・社会構造の国際化等を図り、豊かな国際社会を構築する。(14年度, 20年度)	9-2-1 留学生の受入れ・派遣の両面で一層の交流の推進を図るとともに、留学生の質を確保する。(毎年度, 毎年度) 9-2-2 我が国と世界各国との二国間交流が活発になる中で、二国間における国民間の相互理解を増進し、真の友好親善関係を構築するため、教育・科学技術・文化分野の交流を図る。(14年度, 19年度) 9-2-3 スポーツの普及・発展に寄与するとともに、友好親善や国際的な視野と資質を持った青少年の健全育成を目的として、諸外国との交流競技会等を行うスポーツ交流事業を推進する。(14年度, 19年度)	想定どおり達成 想定した以上に達成 想定どおり達成
		一定の成果があがっているが、一部については想定どおり達成できなかった。		

政策目標	施策目標	基本目標・ 基本目標の達成度合い (カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標(カッコ内は基準年度・達成年度)	達成目標の達成度合いまたは進捗状況
		想定どおり達成	9-2-4 外国語教育の多様化を推進するため、英語以外の外国語教育に取り組んでいる都道府県を推進地域に指定し、地域の関係機関との連携のもとに実践的な調査研究を行い、外国語教育の一層の推進を図る。また、国際理解教育を推進する観点から、指定地域の高校生を諸外国に派遣するとともに、研究対象言語国の高校生を日本で受け入れる。(14年度、18年度)	想定どおり達成
	9-3 大学等による国際協力活動の促進及び国際協力に携わる人材の育成・確保	大学が有する「知」を活用した国際開発協力を効果的・効率的に進めるために、国際教育協力懇談会(文部科学大臣の私的懇談会)における議論を踏まえつつ、大学が組織として国際開発協力活動を行うための基盤を整備する。また、国際開発協力を携わる人材の育成・確保を図る。(13年度、17年度)	9-3-1 大学組織および教員のデータベースを整備し、登録大学を300大学、登録教員を3000人まで増やすことで、国内大学における国際開発協力ポテンシャル(協力可能な教員、途上国への協力実績、協力に関する抱負等)を把握し、援助機関等の外部機関に対し国内大学を紹介可能とする。(13年度、17年度)	想定した以上に達成
9-3-2 サポート・センターを整備し、同センターを通じ、5の援助機関、10の国内外大学関係機関、5のその他連携機関との連携を開始・強化することで、大学等における国際開発協力活動を支援する。(14年度、16年度)			想定した以上に達成	
9-3-3 大学における国際開発協力活動を支援するサポート・センターを通じ、大学の国際協力、プロジェクト受託に関する情報の提供、大学からの相談への対応等、大学が組織として国際開発協力活動を行うための基盤を整備する。(14年度、17年度)			概ね順調に進捗	
9-3-4 開発途上国の開発課題を専門とする若手人材が国際開発協力活動等に携わることを推進し、人材の育成を図る。(14年度、18年度)			概ね順調に進捗	
		概ね順調に進捗		